

令和2年度 能美市立寺井小学校 学校評価（最終評価）

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	評価指標	＜評価の根拠＞ 達成度判断基準	取組状況	評価	学校運営協議会 からのご意見	成果と今後の改善策	
1	組織的な学校運営	①【組織的な学校運営】 教職員が組織の一員として参画し、若手育成とキャリアアップに努め、組織の力が生きる学校づくりを進める。(関わる)	教頭	学年会、校務委員会、校内研修会、ミニ研修会を計画的に実施し若手育成とキャリアアップを図っている。	＜教職員アンケート＞ A: +評価95%～ B: 85%～ C: 75%～ D: 75%未満	ABプラス評価 100%	A	特になし	教職員が連携を取り合いながら、学校運営に参画意識を持ち校務分掌にあたっている。今後もキャリアアップやICTなどの研修を計画的に進めていく。
		②【いじめ・不登校等の未然防止】 職員全員で児童理解、問題の早期発見に努め、専門スタッフと連携し早期対応を図る。(気づく)	教頭	常に、「気づく」意識をもち、報告・連絡・相談に努めている。	＜教職員アンケート＞ A: +評価95%～ B: 85%～ C: 75%～ D: 75%未満	ABプラス評価 100%	A		各関係機関と連携を密にとりながら、問題の早期発見、早期対応を今後も図っていく。
		③【働き方改革の推進】 ライフワークバランスやタイムマネジメントへの意識を高め、専門スタッフとの協働により業務改善に取り組み時間外勤務縮減を図る。(つながる)	教頭	月2回の定時退庁日と毎週水曜日の「ライフワークバランスデー」の取組を通して、時間外勤務時間が月80時間を超える教職員ゼロをめざす。	＜勤務時間集計＞ A: ゼロ B: 1～2人 C: 3～4人 D: 5人以上	4月～ 1月 ゼロ	A		現状では、0人であるが、今後も教職員自身への働き方への意識改革や効率的な業務運営や業務の平準化などに積極的に推進していく。
2	知（ラストまでがんばる子）	①【主体的対話的な深い学び】 算数科を中心とした授業研究の中で、主体的対話的な深い学びをめざし、教師の授業力向上をすすめる。	研究	新学習指導要領をもとに、数学的な見方・考え方を働かせ、「深い学び」につながる授業づくりを行っている。	＜教職員アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	教職員アンケート ABプラス評価 89.7%	A	特になし	新学習指導要領等指導事項に基づいた授業づくりを、どの教職員も共通理解の上実践している。単元や授業のゴールを見据えた授業実践も進められている。児童のより深い学びにつながる研修を、継続して行っていきたい。
		②【基礎基本の確実な定着】 はくれないタイム等を充実させ基礎基本の定着を図る。	主幹	学期末の漢字・計算テストで、クラス平均90点以上を目標に取り組む。(漢字まとめテストは練習なしの点数)	＜期末漢字計算基礎力テスト＞ A: 90点～ B: 80点～ C: 70点～ D: 70点未満	漢字90.1点 計算91.5点	A		基礎基本を定着させるために継続した指導の成果である。確実な力とするためには今後も帯タイムや家庭学習で丁寧な指導をしていく。そして基礎基本の力をもとに活用力へとつなげていきたい。
		③【家庭学習の習慣化】 学習の手引等で家庭と連携し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。	主幹	自学ノート学年目標冊数を達成する。前(34年1冊、56年2冊)後(1年1冊、2年2冊、34年3冊、56年4冊)	＜自学ノート達成率＞ A: 90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	目標冊数達成率 84.4%	B		年間の目標冊数をゴールとして取り組ませ、家庭学習ががんばり週間などで積極的に呼びかけていくことで意欲的に自学に取り組む児童が増えた。学んだことを確かな学力とするための手立てとなるよう、今後も取り組んでいきたい。
		④【読書活動の推進】 学校や家庭での読書を積極的に勧め、個人の読書力を高める。	図書	年間の標準読書冊数(低:60、中:50、高40冊)を達成する。	＜標準読書冊数達成率＞ A: 90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	1月末時点達成率 92.4%	A		図書委員会の取組や司書からの呼びかけなどで、年間標準読書冊数を達成することができた。今後も家庭とも連携をとり、読書時間の確保や啓発を継続的に行う。
3	徳（手をつなぎ助け合う子）	①【生徒指導の3機能】 全職員で全児童を育てるという意識の下、生徒指導の3機能を生かした積極的な指導を行う。	生徒指導	いじめがなく安心安全な学校生活を送り、「学校生活は楽しい」と感じている児童を増やしていく。	＜児童アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	プラス評価 91%	A	特になし	情報の共有や組織的な対応を行うことができた。これからは児童が安心して生活できるよう継続していきたい。また、児童の自己有用感を高めるため、児童の活躍の場や相手を思いやる機会を増やしていきたい。
		②【張りのあるあいさつ】 学校・家庭・地域が連携し、明るく張りのあるあいさつができ、自他を大切にしている児童の育成を図る。	生徒指導	学校・家庭・地域において普段から挨拶をし、自他を大切にしている気持ちを育む。	＜児・保・教アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	ABプラス評価 児童86% 保護者91% 教師83%	B		コロナ禍であり、クマ騒動もあり、児童を中心としたあいさつ運動ができなかった。来年度は、児童を中心としたあいさつ運動を行うとともに、家庭・地域とも連携を図り、あいさつの定着を目指していきたい。
		③【道徳教育の充実】 道徳の時間を充実させ、全教育活動を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	道徳推進	道徳の授業を年間1回以上、保護者や地域の方に公開する。	＜道徳授業の公開＞ A: 全学級 B: ～18学級 C: ～15学級 D: 15学級未満	2学期末現在 16学級で実施	B		今年度は保護者や地域に授業を公開する機会が十分に確保できなかったが、今後も学校だよりや授業公開などで保護者、地域の方へ授業の様子を伝えていきたい。
4	体（命を大切にする子）	①【体力の向上】 各種検定や体力テスト等を活用し、児童の運動への意欲を高め、児童の体力向上を図る。	保健主事	各種検定やスポチャレ等の取り組みにおいて、段階的な指導を行い、児童の伸びを自覚させ、意欲づけにつなげる。	＜児童アンケート＞ A: +評価70%～ B: 60%～ C: 55%～ D: 50%未満	児童アンケート ABプラス評価 88%	A	特になし	コロナ禍で、体力テストの中止や感染予防のため、十分な取り組みができなかったが、今後も検定カードなどの取組を効果的に活用し指導の充実を図ってきたい。
		②【健康な体づくり】 家庭と協力し、むし歯治療率の向上を図り、健康な体づくりへの意識を高める。	保健主事	むし歯治療率を元に、保護者の健康な体づくりの意識を高める。	＜むし歯治療率＞ A: 85%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	1月15日現在 むし歯治療率 80%	B		コロナ禍で健診自体が2学期にずれ込んだが、健診結果を受けてから、各家庭とも連携を取り、むし歯の治療率があがってきている。今後も健康な体づくりの啓発を図りながら、各家庭と協力していきたい。
5	家庭・地域との連携協働	①【基本的生活習慣の確立】 TVやゲームの時間を減らし、早く寝て規則正しい生活する児童の育成を図る。	生徒指導	家庭でのテレビやゲームの時間を以前より減らし早く寝るなど規則正しい生活ができていく。	＜児・保アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	児童 就寝79% ネット84% 保護者就寝88% ネット83%	B	特になし	コロナ禍ではあるが町の先生や検温スタッフなど学校運営協議会のサポートをえながら連携をとっている。今後も家庭、地域など連携をしながら安全安心な学校づくりを推進していく。
		②【開かれた学校づくり】 学校運営協議会と連携しながら、学校教育活動を家庭や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努める。	教頭	学校だよりやホームページなどで、教育方針や教育活動を積極的に保護者に伝えている。	＜保・教アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	ABプラス評価 保護者 99% 教師 100%	A		